

今号は、1学期の自己啓発講座と夏休みのスキルアップ講座、夏期研修講座、研究発表大会について掲載しています。

スキルをみがくたび



自己啓発講座

第1回 草津市教職員自己啓発講座（体育）

今日の子どもの姿から、明日の体育の授業をつくる5

6月14日（火）滋賀大学教育学部 准教授 山田 淳子さん

体育の場面での ICT 機器の効果的な活用について考えよう！

マット運動で子どもたちが互いの技の動画を撮影している場面で…

〈その時間で、どの姿を目指すのか？〉
「ポイントになるところ」、「正しい動き」を知った上で、
タブレットを渡すことが大切！

教師はどんな動きをする？

- タブレットを使わせていることで、支援ができていると安心してしまい、教師の自己満足の授業になっていないかな？
- ICT 機器を介して、子どもと対話できているかな？

<活用のアイデア>

- 2人ペアで… 上手いかずに困っているもの } 別々に撮影し二台並べて見比べる
- 上手にできているもの } 同じ動きの部分で止めて比べる
- 他にも… 去年の自分と比べる デジタルポートフォリオとして残す
- 3人組で単元の「最初」「中」「終わり」と撮影するタブレットを分け、3台で自分の変化を見比べるなど、アイデア次第で活用の幅は広がります！



ボール運動（バスケットボールなどのゴール型）の場面で…

- ペアがコートの中でどのように動いているか撮影する
→2人ペアで動画を確認。人の動きを見て解説することで、課題が見えてくる
- ギャラリーから俯瞰的な動画の撮影（子どもは難しいので教師が撮影する）
→空いたスペースに動くという視点が明確になる

他にも…

- 上手くできたことの再現は難しい。（特に低学年）上手だったからとみんなの前でやってもらおうと、再現できないことがままある。教師が練習の様子を撮影し、手本になるものを見せてあげる。
→1年生に撮影させて自己満足…ではなく、学年に応じた使い分けが必要である。
- 学習のまとめのアンケートを forms で行う。すぐにグラフになるので、子どもの全体的な授業への感想や、授業の課題が見えてくる。



参加者の感想 満足度 ★★★★★…17名

- ・タブレットの使い方をゆっくり子どもたちと考えたり、録り方を伝えたりしていなかったのが、「何の目的で」「どのような角度から」などもう少し伝えていこうと思いました。
- ・子どもたち同士で動画を撮り合うとき、「教師は安心しきっていませんか？」という言葉にドキッとさせられました。明日からの声掛けに、さっそく生かしたいと思いました。
- ・タブレットを用いて、まだ一度も体育の実践をしていないので、今後の体育で活用したいと思いました。バスケットやサッカーなど、ボールを持たないときの動きを説明するのにとてもわかりやすいと思いました。

主体的・対話的で深い学びとNEW草津型アクティブ・ラーニングを学ぶ

<スキルアップ夏季支援講座>



今年度のスキルアップ支援夏季講座は、7月28日（木）に小学校の先生方を対象に志津小学校で、また8月3日（水）に中学校の先生方を対象に教育研究所で実施しました。会場をご提供いただいた志津小学校に心よりお礼申し上げます。

小学校の先生方対象の講座では、前半にスキルアップアドバイザーから「主体的・対話的で深い学び」に向けてのポイントについて、1学期の学校訪問を踏まえて説明をしました。その後、学校政策推進課より、ムーブノートの効果的な活用方法について説明を受け、いくつかの活用事例を先生方自身が体験することで学びを深めることができました。後半は、学年ごとにグループを作り、2学期の単元の中からICTを活用した指導案づくりを行い、終盤に発表を行いました。短時間にもかかわらず、様々に工夫された活用方法の発表が見られました。

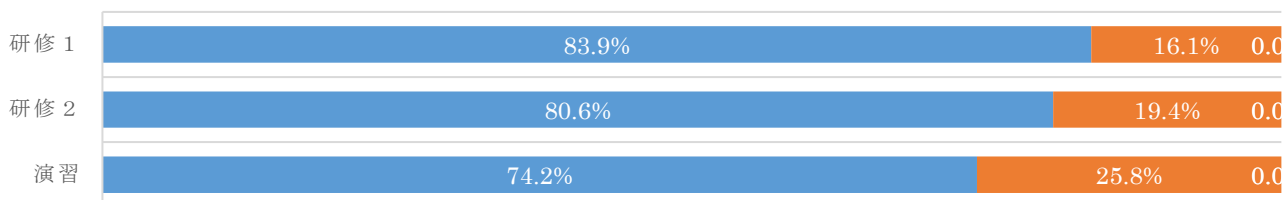
また中学校の先生方対象の講座では、1学期の学校訪問から見てきた課題についてスキルアップアドバイザーより指導があり、その後、ICT担当のスキルアップアドバイザーからムーブノート、オクリンク、またTeamsの授業での活用方法について、実際に体験をしながら学ぶことができ、2学期の授業づくりに向けて意欲を高めることができました。

2学期は、対象の先生方の研究授業を実施していきます。各学校でも、できる範囲で同学年や同じ教科担当の先生、またOJTなどの組織としても参観していただき、一緒に学びを深めていけたらと思います。

参加者の感想（事後アンケートより）

参加者アンケート結果（小学校）

■満足した ■やや満足した ■やや不満 ■不満



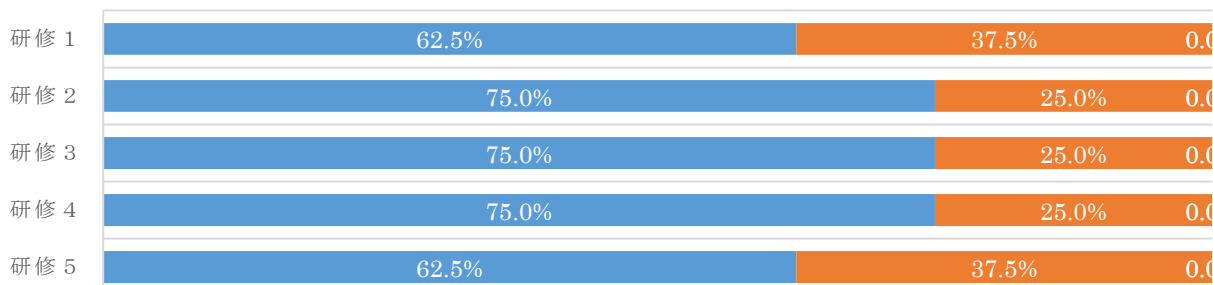
研修1：1学期の訪問の振り返り

研修2：ICT活用について

演習：2学期の指導案作り

参加者アンケート結果（中学校）

■満足 ■やや満足 ■やや不満 ■不満



研修1：1学期の訪問の振り返り

研修2：ICT活用について

研修3：ミライシードの活用

研修4：Teamsの活用

研修5：学習教材づくり



ICT を使った学習を取り入れていきたいと思いつつも、自分自身活用方法の引き出しが少なく、あまり実行できずにいたが、教科ごとに活用例を具体的に教えてくださりイメージが湧きやすかった。後半の単元構想づくりは、単発ではなく単元全体で ICT 活用を考えることで、ICT を使えるポイントを発見することができてよかった。(小)

ICT 活用の方法を知り、今後の授業に取り入れていこうと思いました。実践例をもとに ICT 活用の場面を紹介いただいて大変ありがたく感じました。実践例が、どのような場面だったのかがもう少し細かくわかると、活用しやすいと感じました。また、一斉に PC を起動させるとサーバーが重くなり使えないことが多く、困る時が多いので、その対策も考えたいと思っています。スキルアップでは、自分の教科で ICT を活用していく際に、具体的な活用例を教えていただけるとさらに効果的な授業づくりができるかなと感じました。(中)



同じ学年の担任をしている他校の先生方と ICT を活用した構想づくりをしたのが新鮮でした。今年から草津市の小学校に異動してきて ICT が進んでいると肌で感じる事が多く、実際に2学期にする単元で具体的に学習の進め方を考えることができて良かったです。(小)



teams はよく活用しているが、ミライシードはなかなかタイミングが作れず活用できていなかった。今回の研修で大まかな概要と活用法の違いがわかったので、自校に戻って夏季休業中にさまざまな活用法を検討していきたい。有意義な時間をありがとうございました。(中)






他の学校の先生方と一緒に話し合いをして、単元を考える時間が非常に有効的だと思いました。他の先生の取り組みや他の学校の取り組みを知ることができました。(小)

夏期研修講座

今年度も、感染対策に御協力いただき、夏期研修講座を開催することができました。ありがとうございました。のべ690名の先生方に参加していただきました。各講座の概要と感想を掲載していますので、各自の御実践の参考にさせていただければと思います。

●…講座のポイント、◎…感想

講座名	【人権教育講座1】 「健全な自尊心を育む ～事実を实践で語る人権教育の实践より～」	開催日	7/27(水)
		人数	40名
講師	教育研究所 スキルアップアドバイザー 山崎 賢さん		
	<ul style="list-style-type: none"> ●自分を大切にし、自分と同じように他の人を大切にする態度を育てる上で、どのような『自尊心』を育てることが大事なのかを考える必要がある。 ●自らのバイアス(自分のこだわり=私自身のなかにある思い込みや偏見)に気づき、そのことに向き合い、それを「私の人権課題」にしていくことが大切である。 ◎自分のバイアスがどうなっているのか、一度振り返って考えることができる良い機会となりました。 ◎人権教育は、子どもの人権課題と一緒に解決していく営みだと伺い、学んだことを今後生かしていきたいと思いました。 		
講座名	【人権教育講座2】 「LGBTsの児童生徒の存在を認識した学校での取り組み」	開催日	7/25(月)
		人数	55名
講師	宝塚大学 教授 日高 庸晴さん		
	<ul style="list-style-type: none"> ●LGBTsの子どもたちが、「この先生なら相談できる」と信頼される教師であるために、授業だけでなく、日頃からメッセージを伝えることが大切である。 ●いじめや不登校の背景に、LGBTsのことがあるかもしれないという視点も持つ。 ●保護者や地域への啓発も必要である。 ◎多様性を尊重する環境作り、当事者がいることを想像しながら自分事として考えることが大切だと思いました。 ◎学校生活の中でLGBTsの生徒がいるという認識のもとで学校生活上の支援をどうしていくべきなのかを学校全体で考えていくべきだと思いました。 		
講座名	【生徒指導講座①】 「気になるあの子とつながろう ～『愛着』を視点に～」	開催日	8/2(火)
		人数	61名
講師	長野総合法律事務所弁護士 草津市学校問題サポートチーム スーパーバイザー 峯本 耕治さん		
	<ul style="list-style-type: none"> ●問題行動については、対処療法ではなく、それを「愛着課題の症状」として捉え、その背景や原因を探るアセスメント(解明・見立て)が大切。担任など先生一人で抱え込まずに、チームとしてのアセスメントの土俵に、できるだけ早くあげていくことが必要。 ●アセスメント後のプランニングでは、愛着課題への支援プランを考えていく。愛着確認は、はっきりした言葉で伝えていくと有効。 ◎表面的な行動だけを指導するのは、その子のためにならないことに気づきました。 ◎「大丈夫やで」「大切に思ってるで」「どうしたんや」と、自分自身が子どもの背景、アセスメントを大切にし、子どもへの愛情確認を实践して、繋がれる教師でありたいです。 		
講座名	【生徒指導講座②】 「危機管理的な視点で事例を見立てる生徒指導2 ～事例検討を通して～」	開催日	8/2(火)
		人数	48名
講師	長野総合法律事務所弁護士 草津市学校問題サポートチーム スーパーバイザー 峯本 耕治さん		
	<ul style="list-style-type: none"> ●いじめを認知しながら対策・対応を誤ると、不適切指導ではなく<u>違法になることも</u>。 →いじめを認知したら、すぐに対策委員会を立ち上げ、<u>組織で対応</u>。記録(主観なし、事実のみ記載)を残す。被害者支援を最優先に、学校として支援、対策を考えていく。 ●死に関わる自傷行為等は、本人にその気がなくても死に至ってしまうことも…。 →十分な見立てと複数での危機管理対応が必要。保護者への連絡、医療機関との連携、本人とつながることができる先生(担任と連携でき、カウンセリングできる人)との交流など対策を講じながら、具体的な聞き取りを進めていく。 ◎早期に見立てをし、学校が主体性を持って対応を考えていく必要があると思いました。 		

講座名	【教育相談講座】 「子どもを理解するためのアセスメントとその活用」	開催日	7/27(木)
		人数	36名
講師	岡山県立大学准教授 草津市学校問題サポートチーム スーパーバイザー 周防 美智子さん		
	<p>●子どもを理解するためには、主訴を正しく聴くことが大事。 →話を中断せず、最後まで聞く。聞いた内容は、主語を明らかにして確認。話すときは、都合よく解釈されないよう、曖昧な表現をせず、語尾までしっかり話す。</p> <p>●アセスメントとは、情報を収集し、分析・統合し、見立てること。 →エピソード対応だけでは×、課題改善には、子ども本人、家庭環境、学校環境、地域環境、支援状況の5つの視点から、複数人でアセスメントを行い、チーム支援を目指す。</p> <p>◎事例によるアセスメントの実践では、他の先生方の視点から学びもあり、チーム対応の必要性や良さを改めて感じる事ができました。</p>		
講座名	【特別支援教育講座】 「この子たちの応援団になりたい2 ～私たちだからこそ できること～」	開催日	8/4(水)
		人数	69名
講師	野洲市立篠原小学校 校長 細谷 亜紀子さん		
	<p>●子どものすることには理由があり、それを見つけたとき支援が始まる！</p> <p>●一人ひとりの子どもたちがさまざまな課題を抱えている学級ですべきことは… →多くの児童が学びやすい授業を。その上で個の支援「合理的配慮」を。 ・整理された教室環境、座席の配慮、板書の工夫(チョークの色や文字の大きさなど)、即時にほめる、追い込みすぎない、良いところを見つけて伝えるなど工夫してみる。</p> <p>●先生方の良さを大切にしながら、それらを生かした、創意工夫ある取り組みを！</p> <p>◎学級の子どものことで悩んだ時に、学校が一つになって、子どもたちの課題について、共に考え、対応を決めていく…そういう教職員の組織でありたいと思います。</p>		
講座名	【学力向上講座①】 「指導に生きる評価と授業づくり ～小学校国語科における個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指す実践を例に～」	開催日	7/22(金)
		人数	43名
講師	京都女子大学教授 水戸部 修治さん		
	<p>●授業改善推進のための国語科3つの意識改革</p> <p>①「教師が教え込む」から「子どもが学ぶための緻密な手立ての構築」へ ②「教材を教える」から「指導事項を明確に把握し、言語活動と学習材開発」へ ③「一斉場面で教える」から「個別最適な学びと協働的な学びの実現」へ</p> <p>●教師によって個別最適化された学びではなく、子ども自ら個別最適な学びを行う。 ◎「子どもの学びに対する意識(主体的に学びたい)を喚起できるような授業を教師が仕組むことが大切」と聞き、夏休み中に2学期以降の教材研究を進めたいと思いました。</p>		
講座名	【学力向上講座②】 「算数科における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 ～学習指導要領の趣旨の実現に向けて～」	開催日	8/5(水)
		人数	31名
講師	滋賀大学教職大学院 准教授 大橋 宏星さん		
	<p>●子どもが主役の算数科の授業のために…</p> <p>・素晴らしい授業には必ず子どもの解決したい「問い」があり、教師の「見取り」がある。 ・子どもの考えを細かに予想して手立てを持っておく。 ・子どもを見取り、それに応じた手立てを講じる。 ・子どもが自ら考え、学ぶ体験を積み重ねるため、教師の働きかけとその評価が必要。 ◎授業の軸を子どもにおく大切さ、教師の見とり・コーディネート力の重要性も再認識しました。子どもが“解決したい!”と思う授業づくりにつとめていきたいです。</p>		



講座名	【英語教育講座】 「スモールトークで広がる小学校外国語 ～生きて働く英語を身につける授業の工夫と単元づくり～」	開催日	7/26(火)
		人数	50名
講師	佛教大学 准教授 赤沢 真世さん		
	 <ul style="list-style-type: none"> ●スモールトークは、単元で位置付けて力をつけていくことが大切。 ・先生のモデルを見せてゴールの姿をイメージ ・子どものつまずきからみんなで考えるなど工夫 ・ペアを変えながら、繰り返し体験 <p>子どもたちの「できた」「わかった」につなげる！</p> ●使える英語を身につけるには、英語教育で言い換え、近似、ジェスチャーなど伝えようとする(コミュニケーションしようとする)力を育てる →スモールトークで実践 ◎スモールトークで目的、場面、状況設定も明確に持たすことの大切さを確認できました。 ◎教師が支援者として指導の機会を仕組んでいくことが大切だと学びました。		
講座名	【特別活動・道徳教育講座(学校教育課共催)】 「豊かな人間性を育み、道徳的実践につながる特別活動」	開催日	7/29(金)
		人数	47名
講師	國學院大學 教授 杉田 洋さん		
	 <ul style="list-style-type: none"> ●人は集団(人との関係)の中で、体験を通して人格を完成させる。 →仲間体験、協働体験、感動体験を通して心を育て、つなぐ実践が必要。 ●「言われたことしかできない」←失敗をもっとさせる。(大人が失敗を怖がらない) ●責任感を育てる←子どもに任せて、教師はファシリテーターに徹する。 ●普段から、子どもに寄り添う姿が必要である。 ◎子どもたちがどうしたいか考え、どんな風になりたいのかをもって挑戦し、やってみることが大切だと改めて感じました。 ◎道徳教育と特別活動がこんなにも関わっていることを初めて知りました。「本当に子どものためになることは何か」を考えながら、実践していきたいと思いました。		
講座名	【ICT教育講座】 「モデル授業実施者が語る New 草津型アクティブ・ラーニング」	開催日	7/25(月)
		人数	56名
講師	学校政策推進課 糠塚 一彦さん 学校教育課 奥村 健二さん 高穂中学校 中西 一雄さん 草津小学校 山中 勇弥さん 関口 徹さん 志津小学校 西村 陽介さん		
	     		
	<p>紹介された授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ●PBL(Problem-based-Learning 問題解決型学習)を具現化した社会科の授業。 ●知識構成型ジグソー法とタブレットを活用し、「探究の過程」を大切に理科の授業。 ●ルーブリック評価(達成表を基にした児童による自己評価)と知識構成型ジグソー法を取り入れた理科の授業。 ●Teams を活用してインタラクティブコミュニケーション(限られた時間で量的、質的に充実したコミュニケーション)がとれるように工夫した理科の授業。 ●オクリンクや Forms、Power BI Desktop を活用した理科の授業。 <p>◎学校で PC を文房具のように使うと言われていたが、その意味が今日の実践を聞いて少し分かった様に思います。 2学期以降の授業の実践のヒントをいただけたので、とても良い時間となりました。</p>		

講座名	【くさつ教員塾1 体育実技講座】 「教育機会を見逃さないスポーツ指導」 「青少年のコンディショニングと慢性スポーツ障害」	開催日	8/4(木)
		人数	17名
講師	立命館大学 (トレーナーズチーム)アスレティックトレーナー 岡松 秀房さん		
		<ul style="list-style-type: none"> ●学校教育におけるスポーツ活動において、指導者は人材育成が目的であることを忘れず、児童生徒に道徳心を学ばせる機会を逃さないようにすることが大切。 ●慢性スポーツ傷害とは、運動に関係して起こる運動器の傷害のこと(使い過ぎ、やり過ぎによるケガ等)である。 ●傷害予防とパフォーマンス向上のためのウォーミングアップを実践することが大事。 <p>◎課題に対して、どう取り組むのか(どんな方法で、どんな努力をし、どう友だちと関わるか…)、そして、その結果(勝敗、できたできない)から何を学ばせていくかを、指導者側が意識し、意図して授業をすることが大切だと思いました。そうすることで、楽しんだり、できなくて悔しかったり…と繰り返し経験できる、いい授業につながると思いました。</p>	
講座名	【くさつ教員塾2 幼児教育講座(幼児課共催)】 「遊びと学びをつなぐ円滑な接続に向けて」	開催日	7/26(火)
		人数	44名
講師	鳴門教育大学 教授 木下 光二さん		
		<ul style="list-style-type: none"> ●「集める保育」(保育者主導で集める)よりも「集まる保育」(自然に集まる)を目指す。主体性が発揮され、対話しながら自分たちで遊びを創り、遊びを育てていけるような場面、時間を保証する。その経験を重ねていくと、小学校の学習でも、自ら教材と向き合い、学習を創っていく(自ら学んでいく)姿へとつながっていくだろう。 ●連携(人と人の交流)と接続(カリキュラムの連続性)、それぞれの良さを合わせて架け橋(5歳児、1年生の2年間を見通した幼小のつながり)に！ <p>◎子どもが自ら遊びを見つけ、遊び込み、遊びを作り出せるような関わりが保育者に求められると感じました。幼児期だからこそできる経験の積み重ねを大切にしたいです。</p>	
講座名	【くさつ教員塾3 理科教育講座】 「身近な自然 草津川について知ろう ～草津川の事前観察と防災について～」	開催日	7/29(金)
		人数	10名
講師	滋賀県流域対策局 流域治水係 主査 鍛冶 塩太さん CST 教員 学校政策推進課 尾関 大応さん 草津第二小学校 教頭 明山 晋也さん 草津小学校 山中 勇弥さん 山田小学校 神田 健太さん		
			
	<ul style="list-style-type: none"> ●世界的に雨量が年々増えている。草津市でも水害がたくさん起こっているのので、水害に備えて、日頃から自分たちの生活地域の防災マップや洪水ハザードマップを確認するようにすることが大切である。また、リスクの確認方法として、滋賀県防災情報マップの見方や活用の仕方についても知っておくと役立つ。 ●水質検査は、「パックテスト」を使用する方法や水生昆虫を採取して確認する方法などがある。先生方には草津市内を流れる川について詳しく知ってもらって、学習に活かしてもらいたい。 <p>◎旧草津川氾濫の歴史をもとに、水害への意識を中学理科の授業で身に付けさせ、これからの災害対策について考える授業をしていこうと思います。</p>		

CST 教員とは？

CST 教員 (コア・サイエンス・ティーチャー) とは、大学で理科教育の専門的な知識や技能を習得し、理数教育の中核的な役割を担う教員として認定された先生方のことです。現職の CST 教員の皆さんは、勤務校や勤務地域で他教員への理科支援を行ったり、理科実践を教示したりされています。

研究発表大会

第一部	令和3年度 草津市教育研究奨励事業 表彰者による発表	開催日時	8/1(月)13:00～
		参加人数	54名
発表者	① 幼児教育の本質が見える・伝わる・実感できる教育実践 ～誰もが“かがやき”、誰もが“あきらめない”、矢倉幼稚園～ 矢倉こども園 幼児教育の可能性を切り拓く会 代表 宇野 智子さん (現山田こども園)		
	② 「中学校社会科における適正な評価に関する研究」 ～主体的に学習に取り組む態度の評価に焦点を当てて～ 草津中学校 教諭 水谷 哲郎さん		
	③ 数学的に表現し伝え合う活動を大切に授業の工夫 山田小学校 教諭 土井 祐磨さん		
			
<p>(参加者の感想)</p> <p>◎それぞれの年齢に応じた教師の関わり方を学び、子どもたちにとっていかに自分たち人的環境が大切なかをより考える機会になりました。</p> <p>◎皆さんの研究発表を聞いて、今までしてきた「当たり前」をそのまま「当たり前」にしてしまうのではなく、目の前の子どもたちや社会情勢の変化に合わせて変えていかなければいけないと思いました。</p>			
第二部	教育講演会	開催日時	8/1(月)14:30～
		参加人数	29名
講演	演題 「まずやってみる ESD」 講師 奈良教育大学 教授 中澤 静男さん		
	<p>(講演の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ESD は、人々の社会づくりに関する価値観と行動の変革を促す教育である。 →持続可能な社会づくり(SDGsの達成)に積極的に参加・参画しようとする市民を育てるのが ESD ●ESD で育てたい価値観は、CARE(気にかける、関心を持つ、気にする等) →持続可能な社会のためには CfT(Care for Thing)物事に対するケアが必要 ●持続可能な状況に「気づく」ことが重要 →日常的な社会事象の中から、持続不可能な事象を見出し、改善していく態度が必要 持続可能な社会づくりは自発的に取り組むもの、つまり「気づく」ことが大切 		
	<p>(参加者の感想)</p> <p>◎ ESD に関して、多様な視点から考える良い機会でした。子どもたちが少しでも ESD の視点で物事を考えられるような実践を、2学期以降、展開していきたいと思えます。</p>		

今後も、教育研究所では先生方のニーズに合った研修を企画していきたいと思えます。ご自身のスキルを伸ばしたい方、新しいことに興味のある方、幅広く学びたい方…など、ぜひ、当研究所の講座にご参加ください。お待ちしております。



